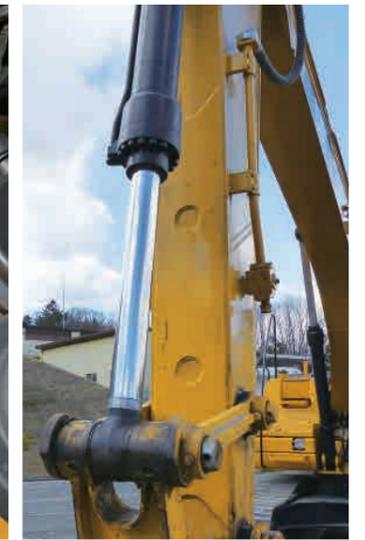
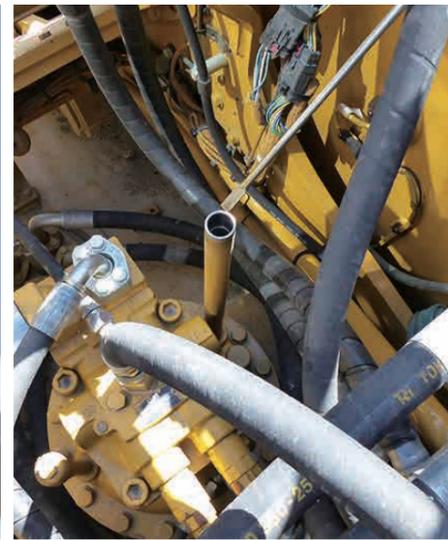


see more プロサポ

油圧ショベルの日常点検 ～基本から始めよう!～

暑い日が続きますね。夏バテしていませんか？
万全なコンディションを維持するためには、
常日頃からのケアが大切。
それは、人間だけでなく、機械だって同じです。
そこで今回は、基本に立ち返って
油圧ショベルの日常点検をおさらいしましょう。



日常点検の重要性

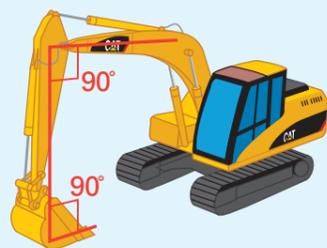
油圧ショベルなどの建設機械は、過酷な条件下で使用されることを前提として非常にタフに作られています。しかし、毎日使っていれば、消耗したり壊れたりする箇所も出てきます。機械を良好な状態で長持ちさせ、安全に作業を行うためには、日頃からの小さな点検と早め早めのメンテナンスが大切です。日常的な維持管理を怠ると、生産性や安全性が低下するだけでなく、突発的な故障を招いて修理費や休車時間を増大させることにもなります。

メンテナンスは
故障が起きる前に！
故障が発生すると修理費や
休車時間は何倍にも膨みます



〈正しい点検姿勢〉

平坦な場所！作業機は直角！



日常点検は、平坦な場所でブーム、アーム、バケットを直角にした姿勢で行います。このような姿勢でないと、エンジンオイルレベルや作動油レベルがきちんとチェックできません。

日常点検の手順



油圧ショベルを正しい姿勢で駐機したら点検開始！数字の順にチェックしていきましょう。

1 エンジンオイル

- エンジンオイル量はきちんと入っていますか？
- エンジンオイル交換、エレメント交換は定期的に行っていますか？

レベルゲージを挿し直してオイルが十分入っているかチェックしましょう。少ない場合は必ず補充してからエンジンを始動するようにしてください。エンジンオイル、エレメントは500時間または3カ月のいずれか早い方で交換してください。



3 エアフィルタ

- マフラーから黒煙が出ていませんか？

エアフィルタが詰まると不完全燃焼を起こし、エンジン出力が落ちるだけでなく、燃料消費量も多くなります。エレメントは定期的にプライマリフィルタを内側からエアで清掃し、1年毎に交換するようにしましょう。



5 旋回減速機オイル

- オイル量はきちんと入っていますか？
- オイルが白く濁っていませんか？

旋回減速機は大きな力が掛かるため、オイル量をきちんと保つようにしてください。オイル交換の目安は1,000時間または6カ月毎ですが、白く濁っている場合は雨水などが混入しているので早めに交換してください。



6 グリスアップ

- グリスアップは定期的に行っていますか？

バケット周りは土砂などを噛み込んで摩耗しやすいので、なるべく小まめにグリス給脂を行うようにしましょう。



8 作動油

- 作動油量はきちんと入っていますか？
- 作動油が汚れていませんか？
- フィルタ交換は定期的に行っていますか？

作動油の適正レベルは油温によって異なります。低温時は下線と中央線の間、稼働後などの高温時には中央線と上線の間であればOKです。作動油は5,000時間または3年毎、フィルタは2,000時間または1年毎に交換するようにしましょう。



7 ゲタの張り調整

- 鉄ゲタの張りは、アイドルとキャリアローラ間のたるみが50mm前後になっていますか？
- ゴムクローラの張りは、クローラを持ち上げた状態でトラックローラとの隙間が10～15mmとなっていますか？

ゲタの張り過ぎは、アイドルやスプロケット、リンクやブッシュの摩耗を早めるだけでなく、走行スピードが落ちて燃費を悪化させる原因にもなります。適正に調整しましょう。



9 車両下部の油漏れの確認

- 車両の下に液体（冷却水、燃料、作動油、エンジンオイル）が漏れていませんか？



10 燃料ライン

- 燃料タンクとウォータセパレータのドレーン、ウォータセパレータ下部のボウルに水やゴミが溜まっていませんか？

燃料タンク内は、結露により水が溜まって錆びやすく、給油時にゴミなども混入します。小まめに排出するようにしましょう。また、燃料フィルタおよびウォータセパレータは500時間または3カ月毎に交換するようにしましょう。

2 ラジエータ

- ラジエータ液量はきちんと入っていますか？
- ラジエータ液には添加剤(クーリック)を入れていますか？
- ラジエータキャップのパッキンは大丈夫ですか？
- ラジエータは目詰まりしていませんか？

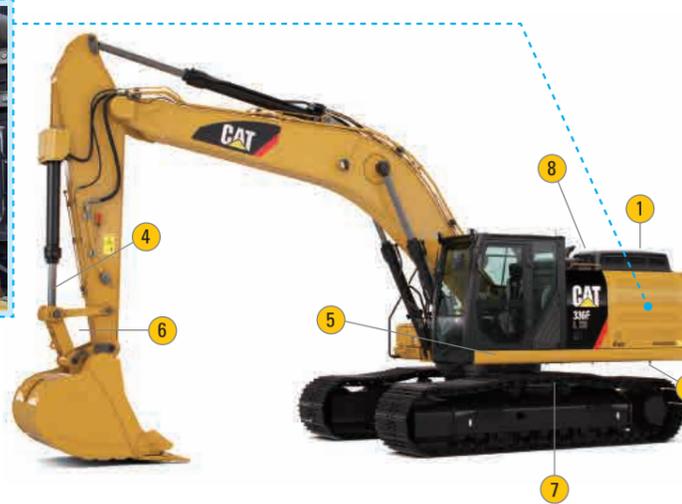
ラジエータの点検、冷却水の管理もきちんと行わないとオーバーヒートを起こし、エンジンを損傷する恐れがあるので重要です。



4 油圧シリンダ

- シリンダのロッド部分に損傷はありませんか？
- シールから油漏れしていませんか？

油圧シリンダの損傷などを早めに発見して手当てをすれば、大きなトラブルを防ぐことができます。



しっかり目を配り、手を掛けてあげれば、油圧ショベルは良好なコンディションで長い間活躍してくれます。日常点検で異常があるかも知れないと感じた場合は、すぐに最寄りの販売店にご相談ください。

※詳細は各機種の取扱説明書をご確認ください。